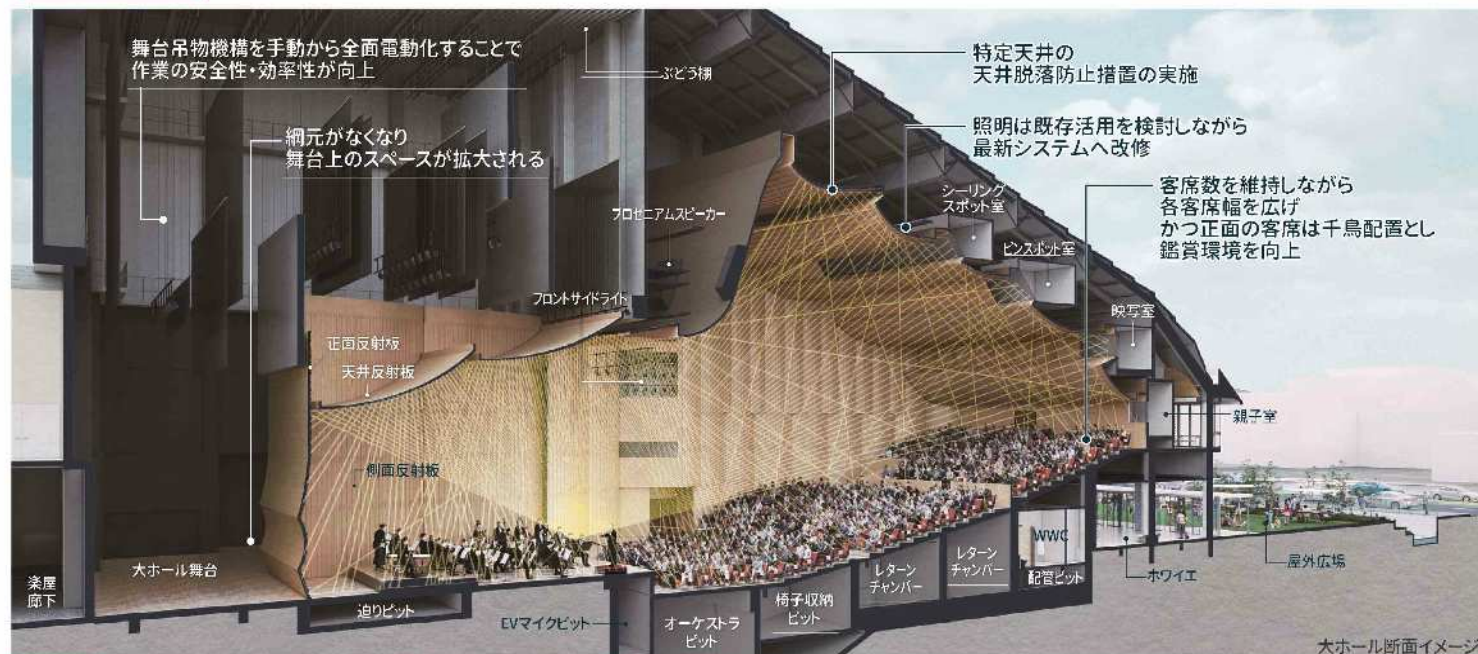


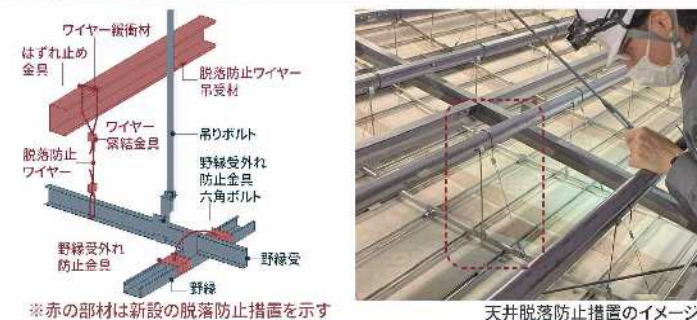
特定テーマ(2) 『大ホール(劇場)機能の機能維持および機能向上に対する考え方と方策』



(2)-1 大ホールの特定期間天井改修の方針

■ 特性を継承しつつ、安全性を向上させるローコスト改修

- ・特定天井の改修では、大ホールの特性を継承しつつ、**既存天井を活用したワイヤー等による吊り下げ方式で、天井面の脱落防止措置を施し、安全性を確保します。**
- ・設計段階では、天井材をユニットで構成する竣工時の設計思想を踏襲し、最適箇所に落下防止ワイヤー等の設置を検討することで、さらなる減額を目指します。
- ・天井脱落措置は天井内での作業を基本とし、客席側の足場設置を最小限に抑えることで、工期短縮とコスト削減を実現し、**既存資源を活かした効率的かつローコストな改修とします。**



(2)-2 音響性能に関する考え方

■ 評価の高い音環境を継承する大ホール

- 現在の大ホール天井面や壁面は、舞台から客席にかけて複数の凸曲面で構成され、その配置と曲率により客席全体に反射音が届く設計であり、音響反射板設置時の残響時間も長く、豊かな響きの音響空間です。
- 既存天井を活かした脱落防止措置は、天井形状や素材も維持できるため、音響性能を損なうことのない最も確実な改修方法です。
- 優れた音響性能を持つ大ホールをさらに明瞭で広がりのある音響空間にするため、側壁に効果的な反射機構などを設ける検討を行います。



(2)-3 快適な客席環境と機能的な舞台空間の設計方策

■すべての来場者に快適で心地よい客席環境

- ・全館避難検証で安全性を確認し、条例の規定緩和による縦通路の適正化を行うことで、座席幅の拡大や座席中央部の千鳥配置、車いす対応座席の拡充など、客席数を維持しながら、視認性と快適性を向上させる計画を目指します。

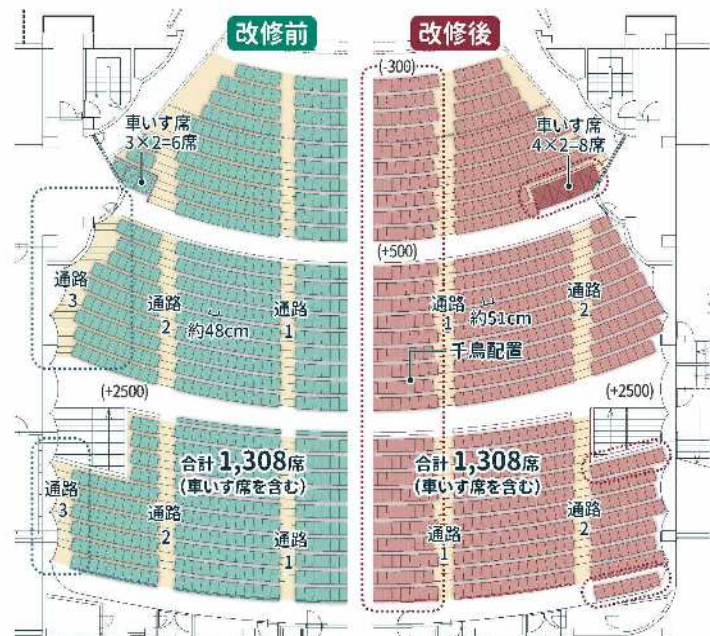
■ 誰もが使いやすいデザイン

- ・視認性に配慮した車いす対応座席を拡充し、客席通路は段差部の明瞭化や手摺の設置を行うなど、誰もが安心して利用できるデザインとします。



■ 多様な演出に応える舞台空間

- アマチュアからプロまで幅広い公演利用に対応するとともに、機器の持込にも柔軟な舞台設備を計画し、演出の自由度を広げる環境を整えます。
- 舞台設備各種は既存調査と運用ヒアリングを行い、既存設備の活用を検討・コスト削減を図りながら、機能性・安全性・操作性に優れた最新システムへ更新します。
- 吊物機構を手動から全電動化することで作業の安全性・効率性を向上させます。また電動化により綱元がなくなり、舞台上のスペースが拡大されます。
- 舞台照明は、LED 主体で省エネルギー化と運用コスト削減を図り、ハロゲン機器や持込機器にも対応した計画とします。また、舞台演出の高度化、複雑化にも柔軟に対応できるよう、最新のデジタル技術を積極的に取り入れた計画とします。



特定テーマ(3) 『多様な市民の練習・発表・創造の場の創出に対する考え方と方策』



(3)-1 小ホール、展示室の現状の課題に対する解決策

■ 豊かな響きと安全性を備えた小ホール

- ・ピアノ発表会やコーラスなど音楽利用が見込まれる小ホールは、市民の創造・発表の場として、音響性能を向上させた音楽主目的の多機能ホールに改修します。
- ・天井を高く新設して気積を増やし、残響時間を伸ばします。天井形状は音響特性を考慮した設計で、構造体から直接支持する「剛天井」にすることで安全性も向上します。
- ・客席は電動可動席から固定席へと改修し、床構造の安定化により音の反射・響きの質を高めるとともに、保守管理の簡略化やコスト削減も可能とします。
- ・大ホール同様吊物機構を全電動化・綱元のスペースの有効活用を行います。



■ 中庭の屋内化による新たな多機能スペースの創出

- 中庭については多目的利用の柔軟性を補完する場として、**屋内広場へと改修し、催しや展示など多用途にも利用できる多機能スペースとして計画します。**
- 2階にスタジオ各種をまとめてゾーニングし、従来小ホールで行っていた会議や行事など多用途な活動が可能な計画とします。
- 屋内広場は、市民ロビーとつながる自由度の高い構成とし、**可動間仕切りの計画により一体的な利用から個別利用も可能となる多用途対応の場とします。**
- 展示室は屋内広場と一体利用ができるよう、必要に応じて開放できる建具に改修し、より多様な用途に対応できる空間となるよう計画します。



(3)-2 2階諸室の平面計画、空間構成、見える化の方策

■ 光と視線のつながりが生み出す、開かれた交流の輪(わ)

- 屋内広場は、自然光にやさしく包まれる開放的な空間とし、施設の中心となる場として機能します。これにより、市民が自然に集まり、多様な交流が生まれる場となり、地域の文化活動をより活性化させる役割を果たします。
- 現状で認知度が低く、利用機会が限られている2階は、廊下の配置を見直し、屋内広場に面する回廊として改修することで認知度と利用率の向上を図ります。
- 開放的な階段やEVを通じて、1階と2階の活動が一体感を持ってつながり、屋内広場が交流と賑わいを高める施設全体の輪(わ)の中心となります。
- 吹き抜け上部の熱だまりを利用した重力換気による自然換気や、ライトシェルフによるロビーへの昼光利用などバッシュデザイン[※]の検討を行います。

